



TITLE:

アメリカの大学図書館訪問記 :UCLA(カリフォルニア大学ロサン ジェルス校)

AUTHOR(S):

片山, 淳

CITATION:

片山, 淳. アメリカの大学図書館訪問記 :UCLA(カリフォルニア大学ロサンジェルス校). 静脩 1997, 33(2): 4-7

ISSUE DATE:

1997-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37452>

RIGHT:

アメリカの大学図書館訪問記II：UCLA (カリフォルニア大学ロサンジェルス校)

附属図書館専門員 片山 淳

1. はじめに

前回に続いて昨年度末のアメリカ研修旅行から、UCLA (カリフォルニア大学ロサンジェルス校) の図書館を訪れた時に得た図書館関係の話を紹介したいと思います。

2. UCLAの図書館

1) コミュニティの図書館

UCLA の University Research Library (中央図書館) (以下「URL」という。)を訪れたのは、3月20日のことでした。数年前に京都で開催された日米ワンデイセミナーで知り合った図書館員がいたこともあり、予め連絡しておいたので資料も準備してくださり、見学の時間も用意していただいていたので、図書館の現場を少ない時間で見ることができました。誌上から UCLA 東アジア図書館の三木さんにお礼申します。ありがとうございました。

図書館への入館に際して驚いたことは、ゲートの脇にいた警備員が誰でも入っていいのだという感じで通してくれたことです。三木さんに会いたいのですがと言うこともなく通してくれたのです。オープンな図書館でした。警備員は少し太めのまだ若そうな、気持ちの良い、明るい、少し茶目っ気のある人でした。後で三木さんに聞くと、大学の図書館ではあるけれど、州からの補助もあり、いわゆるコミュニティのための図書館として活動しているということでした。したがって、誰でも自由に入館することができるのでした。日本の大学図書館とどうも雰囲気が違うという印象でした。身分証の確認も必要ではなく、目的を聞かれることもなく、入るのは自由という感じでした。もちろん、出る時には資料の無断持ち出しのチェックをする体制になっていたのですが……ちなみに、BDSは参考資料コーナー(1階)の入口に設置されていましたし、レファレンスコレクションと特殊コレクションは、その部屋での利用に限定されていました。つまり、Circulationからは除外されているのでした。

2) 選書

感心したことの二番目は、選書の体制です。Library Guideにもあるのですが、主題分野毎に選書担当者が定められ、利用者にわかるように公表されていたことです。三木さんは日本語・日本文化担当となっていました。聞いてみますと、その主題分野の選書についてはネットワークを通じて、質問や要求が寄せられ、議論できるようになっているということでした。担当する図書館員は名前だけでなく、連絡先・住所・E-mail アドレスまで公表されているのです(図1参照)。選書・収書の責任体制が明確になっていることは極めて重要なことだと感心しました。

3) 図書館システムを構成する図書館群

さて、UCLA の図書館群について書いてみます。総合大学で、20の図書館群から構成されて

図1

COLLECTION DEVELOPMENT LIBRARIANS DIRECTORY All 7-character e-mail addresses end with @MVS-OAC.UCLA.EDU		
<p>JAN Campus 145802 IDAN@UCLA.EDU</p> <p>AS Engineering Library Campus 159810 CZSEBA</p> <p>AM s Group Campus 157511 CZSEBA</p> <p>BROWN Campus 157511 CZSEBB</p> <p>R Stons Campus 157511 CZSECA</p> <p>R Library Campus 179620 CZSEDC</p> <p>G ray Campus 157511 CZSEDI</p> <p>IS partment Campus 157511 CZSEDI</p> <p>f Engineering Library Campus 159810 CZSEAN</p> <p>IKAL partment Campus 157511 CZSECO</p> <p>LD ray/Management 002 CZSEMC</p> <p>ions Campus 157511 CZSEGO</p> <p>ELBAM ment Information Library Campus 157511 CZSEMD</p> <p>JOHANN Library Campus 179820 CZSEMT</p> <p>R s Group Campus 157511 CZSELO</p> <p>f Campus 149006 CZSEMC</p>	<p>BARBARA HANER Science & Engineering Library 8251 Boulder, Campus 159810 825-1055 • ECZSEH</p> <p>JUDITH HERSCHEMAN Arts Library 2250 Dickson, Campus 139206 206-5426 • ECZSEHN</p> <p>DAVID HERSCHE Bibliographers Group A1540B URL, Campus 157511 825-3398 • ECZSEHN</p> <p>AUDREY JACKSON Science & Engineering Library 8251 Boulder, Campus 159810 825-3398 • ECZSEHS</p> <p>MINYUNG KANG East Asian Library 21617 URL, Campus 157511 825-6937 • ECZSEKH</p> <p>JOHN KAPLOWITZ Biomedical Library 12077 CHS, Campus 179820 206-8016 • ECZSEK</p> <p>BRIGITTE KUEPERS Arts/Special Collections 22478 URL, Campus 157511 825-7253 • ECZSETH</p> <p>CATHERINE LEE Bibliographers Group A1540M URL, Campus 157511 825-1534 • ECZSEUE</p> <p>EUDORA LOH Bibliographers Group A1540Q URL, Campus 157511 825-1125 • ECZSEU</p> <p>ROBERTA MEDFORD Bibliographers Group A1540G URL, Campus 157511 825-1249 • ECZSEAM</p> <p>MICROKO MIKI East Asian Library Campus 157511 825-6836 • ECZSEMH</p> <p>PAUL NADITCH Bibliographers Group A1540M URL, Campus 157511 206-0936 • ECZSEGN</p> <p>CHEE NGGAARD Map & Government Information Library A1540J URL, Campus 157511 825-3526 • ECZSEJN</p> <p>KAMON PETERS Science & Engineering Library 8251 Boulder, Campus 159810 825-6196 • ECZSEOM</p> <p>KATALIN RADICS Bibliographers Group A1540I URL, Campus 157511 825-1843 • ECZSEAR</p> <p>RAYMOND REECE Arts/Special Collections 22478 URL, Campus 157511 825-7253 • ECZSEAT</p>	<p>PETER REIL Clark Library 2250 Crenshaw Street Los Angeles, CA 90018 213-735-0487 • REIL@UCLA.EDU</p> <p>BARBARA SCHADER Biomedical Library 12077 CHS, Campus 179820 825-6498 • ECZSEB</p> <p>CYNTHIA SHELTON Bibliographers Group A1540L URL, Campus 157511 825-1324 • ECZSEC</p> <p>BARBARA SEVERAL Map & Government Information Library A1540I URL, Campus 157511 825-1086 • ECZSEAS</p> <p>LOE SWABER College Library 121 Towell, Campus 145004 825-2138 • ECZSELS</p> <p>RAYMOND SOTO Bibliographers Group A1540H URL, Campus 157511 825-4087 • ECZSEAV</p> <p>LOUISE SPEAR Ethnomusicology Archive 1630 Schoenberg, Campus 149006 825-1695 • ECZSEOU</p> <p>GORDON THEIL Music Library 1102 Schoenberg, Campus 149006 825-1389 • ECZSECO</p> <p>ALFRED WILLIS Arts Library 2250 Dickson, Campus 139206 206-5426 • ECZSEAW</p>
<p>ORGANIZED RESEARCH UNITS</p> <p>RICHARD CHABRIAN Chicana Studies Research Library (CSRL) 54 Haines Hall, Campus 138003 206-4052 • CHABRIAN@UCLA.EDU</p> <p>ANGELICA LEE Asian American Studies Center Library (AASCL) 2288 Campbell, Campus 154602 825-3043 • AASCLML</p> <p>VELMA SALABERRY American Indian Studies Center Library (AISC) 3214 Campbell, Campus 154802 206-7310 • ECZSVSS</p> <p>ITIBARI ZULU Center for Afro-American Studies Library (CAASL) 44 Haines, Campus 154503 825-6006 • AAFUHL</p>		
<p>CHS = Center for Health Sciences • OGM = Old Graduate School of Management • URL = University Research Library</p>		

図 2

Campus Libraries UCLA



いました(図 2 参照)。建物としては主題分野毎に、14の図書館群でしたが……。

中央図書館である URL には、特殊文庫、地図・政府刊行物、東アジア関係などのコレクションが備え付けられていました。特殊文庫は、膨大なカード目録とともに、中央図書館の地階にありましたし、東アジア図書館は3階の一角に、地図・政府刊行物は地階にありました。地階には、貴重書庫といってよい保存書庫があり、ここでは写真撮影でフラッシュを焚くことが禁じられていました。

中央図書館の組織として注目したいことは、Bibliographers Group が存在することです。本館の情報管理課にあたる部分は、一階の資料貸出・返却用のメインカウンターの右側にあり、受入・目録担当係があり、その奥に7～8室の個室が設けられていました。これが、Bibliographer の部屋でした。書誌作成者とも呼べば良いのでしょうか、書庫内研究資料の選択・管理を担当する人達で、蔵書構成に責任を持つ集団です。いわゆる我々と同じ図書館員とは給料も少し違う(高い)のだそうです。

1階に備え付けられているコレクションは、雑誌、参考図書で、ORION と呼ばれるシステムのオンライン情報サービス用の端末が16台、Information Desk を挟んで16台(MELVYL も使える)合計32台が配置されていました。こ

れらの端末の奥に雑誌コレクション、隣合わせてレファレンスコレクションが BDS とともにあり、レファレンスカウンターには3台の端末が置かれ、利用者からの質問の処理(ILLの受付も含む)をしていました。

URL 1階の説明が長くなりましたが、キャンパスの図書館群の配置は図2のとおりです。キャンパスの中心部に University Archives (Powell Library) があり、芸術、経営学、法律学、URL が北部に、音楽、理工学(物理)、教養(College)が近辺に、理工学の化学、数理工学、地質学が少し南に、生命科学が病院とともに最南に、そしてカリフォルニア大学の保存図書館及びドキュメントデリバリー機能を果たすための南部地域(数カ所にあるカリフォルニア大学の南部という意味)図書館施設があります。数理工学図書館の近くの生協 Ackerman Union のそばに、複写サービスセンターがあり、特殊コレクションの類は、音楽関係を除いて URL に集中されていました。

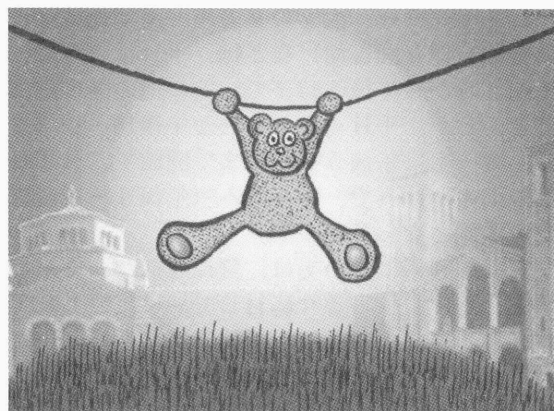
University Archives のある Powell Library や Ackerman Union のあるキャンパスの中央通りが“Bruin Walk”と呼ばれ、日本語に翻訳すると“熊の歩く道”という意味になりますが、これから取った名前が UCLA のキャンパスネットワークシステム・サービスに付けられており“BRUIN ONLINE”と呼ばれています。

4) ネットワークサービス (BRUIN ONLINE)

BRUIN ONLINE はネットワークシステム・サービスの名称ですが、そのホームページには、張り巡らされた綱にぶら下がる熊のライトアップされた姿を描いたイラスト(図3)が取り入れられています。

ネットワークサービスは、OAC (Office of

図 3



Academic Computing) という組織が運営母体となっており、季刊誌として“Perspective”が刊行されており、様々なニュースや案内が流されています。この組織は、以下の4つの部門から構成されています。

① Computer Operations と User Services
を内容とする Computational Services

② Microcomputer Information Center と
ハンディキャップを負った人に対するサポート
を担当する Microcomputer Support Office

③ Help Desk を構えネットワークの維持・管理
を担当する Campus Network Services

④ Academic Technology Center

利用者には、オンラインで自動的に BOL-id (Bruin OnLine id) が付与され、E-mailをはじめとする様々なネットワークサービスが利用できます。ホームページには、BOLについての利用綱領、ガイド、援助の求め方、キャンパス情報、学生生活情報などが盛り込まれています。ネットワーク上には InfoUCLA としての Gopher、WAIS、www などのサーバ、USENET のニュースサーバ、電話番号と電子メール：E-mail アドレスのディレクトリなどが設置されており、活発に利用されているようでした。利用状況を示す一つの例として、InfoUCLA の www サーバへのアクセス数は、4,600 (1993) から 58,000 (1994) へと成長したそうです。情報処理教育もこの OAC が担当して実施しており、internet、UNIX、SAS、PVM などが2時間コースでスケジュールされています。internet の基礎コースの場合、URL の2階にあるメディア教室や南部地域図書館の Biomedical Library で週一回ぐらいのペースで開催されているようです。

5) 図書館サービス

MIT についても見たように、サービス時間帯について、まず紹介します。特殊文庫、複写サービスセンター、大学の文書館、南部地域図書館施設 (保存図書館) などは、平日に限られ、午前9時から午後5時まで。その他の図書館はほとんどが、平日 (月～木) が午後10～12時まで、金～土は午後5～9時まで開館で、日曜日は午前中が休みで、午後のみ (午後9～12時まで) 開館となっています。

資料の利用については、貸出規則が、外来者、学生、院生、教官各々に対して別に定められています。言えることは、特殊文庫や参考図書資料はステータスに拘わらず、館内利用に限定され、製本雑誌や未製本雑誌やパンフレットや非

図書資料について、外来者には貸出が認められていないことです。

また、クラスに対するサービスとして、情報源への主題からのアクセス・書誌的アクセス・電子的アクセスについての相談サービス、図書館利用指導、図書館が援助するワークショップ (オリエンテーションにおけるツアー、www やオンラインデータベースや CD-ROM など電子的情報源の使い方、ORION や MELVYL システムのデータベースの利用についてのデモンストレーションなど) の開催が用意されています。

ILL における図書館間貸出サービスは、教官、学生、図書館カードを所持している学内者が無料で利用できるサービスとなっているようでした。さらに、UC (カリフォルニア大学) の各分校間のドキュメントデリバリー及び図書資料のデリバリーサービスが実施されており“ORION EXPRESS”と呼ばれ、要求を受けてから48時間以内に該当資料を手元に届けるサービス (Document Delivery and Paging Services) が実施されていました。

6) 図書館資料へのアクセス (CAT and TEN)

さて、UCLA の図書館目録は、カリフォルニア大学、カリフォルニア州立大学、研究図書館センター、カリフォルニア科学アカデミー、スタンフォード大学などカリフォルニア州の共同分担目録システムとなった MELVYL でサービスされるオンライン目録と、オンライン情報システム (ORION) で提供されるオンライン目録 (これは目録というより受入データベースと言った方が良いでしょう) とがあります。ORION のデータは、図書館資料の最新レコードで構成されており、受付された雑誌類や図書館が発注・受入・整理している資料についてのレコードに重点が置かれたものです。つまり、資料の受入・受付情報の最新データ (業務システムのデータ) が ORION で提供され、目録情報データベースは MELVYL で提供されるということになります。しかも、MELVYL の目録情報データベースは“CAT & TEN”と呼ばれており、地域総合目録 (CAT) と最近10年間のクイックレファレンスのためのアクセスファイル (TEN) が用意されており、データベースを選択して使うことができます。なるほどと思いました。つまり、最近10年間の目録が別ファイルとされており、検索対象のファイルが分けられていたのです。10年といいますが、学術文献の寿命として10年あれば良いとする説もあります。確かに、我が

京都大学附属図書館でも、和雑誌のオープンアクセスは10年までとされていた時があります。MIT でも、1963年を境に資料を保存対象とするように区切られていましたが、これは稀用資料の保存とともに、整理技術との絡みもあつてのことだと思われます。結局、UCLA では、図書館資料へのアクセスファイルが3種類用意されていることになります。受入・受付、TEN、CATです。先述した選書における話と絡めて考えますと、利用者に図書館資料の選書からのすべての段階のデータが提供されていることになります。この意味では、大学構成員に対して図書館の情報が丁寧に提供されていることになると思います。

7) 電子的情報源とサービス

UCLA で提供されている情報サービスは、先述した ORION と MELVYL、そして BEN と呼ばれる電子メールシステム、“BRUIN ONLINE” という4種類のシステムです。ORION、MELVYL、BEN、internet の利用は、学生・教官は無料で利用できるようですが、職員が利用する際には、キャンパス内の図書館のサービスデスクから利用する場合は無料ですが、職場の端末からアクセスする場合は、1時間について1～4ドルの料金がかかるということでした。学外者によるキャンパス外からの利用については、当然課金されます。

ORION で検索できるデータベースには、様々なキャンパスデータにアクセスできる InfoUCLA (カリキュラムやディレクトリや構内の書店の在庫情報など)、その他学内にある文書類やコレクション (図書館以外のもの) のデータベースとして以下のものがあります。

1. Chicano Studies Research Library
2. Ethnomusicology Archives
3. Film and Television Archive
4. Institute of Social Science Research (ISSR) Data Archives
5. Instructional Media Library

一方、MELVYL でサービスされているデータベースは、オンライン目録以外では、“MAGS NEWS and COMP” と呼ばれる雑誌論文索引データベースがあります。これは、1988年以降現在までの約1,500の雑誌の抄録とフルテキストを収めた MAGS (Magazines)、1982年以降現在までの New York Times, Washington Post, Los Angeles Times, Wall Street Journal, Christian Science Monitor の5つの主要

新聞の記事を対象にした NEWS、コンピュータ関係の約200ほどの出版物からとった引用文献を対象にした COMP がその内容です。MEDLINE、Current Contents、Inspec、PsycInfo、ABI/Inform などのデータベースもサービスされています。さらに、Elsevier 社と UC との間の協力によって、43種類の物質科学・工学関係の電子ジャーナルが提供されているのは MIT と同じ実験プロジェクト TULIP によるもののようでした。

8) 見学の印象

以上が、UCLA の図書館システムの概要です。このシステムを見て感じたことは、MIT の印象と重なりますが、以下のようなことです。

第1に、ネットワークが有効に機能していること。

第2に、コミュニティへのサービスとして図書館が機能していること。

3. おわりに

ここまで書いてきてやはり思うことは、アメリカの図書館システムの合理的なまとまりです。図書館ネットワークシステム・サービスは、広大なアメリカにとって必要不可欠なものだったのではないのでしょうか。技術的に急激な展開を遂げたのも、必要性があったからではないかと思います。もちろん我が国においても、情報における地域格差をなくし、誰でもが平等に必要な情報を手にすることができるというシステムの必要性は不変です。高度情報化社会の到来が言われ、図書館が高速ネットワークのなかで、どんなサービスを展開するのかが問われている現状において、先進国アメリカの大学図書館が展開してきたサービスは一つの先進例となるのは間違いないことです。

(平成8年6月26日)

(参考文献)

1. UCLA Library Guide 1995/96
2. perspective v. 19 no. 2 1995
3. perspective v. 20 no. 1 1996
4. UCLA Facts
5. UCLA URL (中央図書館) が作成・発行しているパンフレットやリーフレット類

@これらの文献は著者の手元にあります。
ご覧になりたい方は連絡ください。

(tel. 753-2630)